

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1) 一般外科・小児外科

2017年の手術総数は1,725件で、2016年の1,604件と比べると100件余り増加した。そのうち15歳以下の小児手術は179件、全緊急手術は338件（338/1,725、20%）、うち鏡視下手術は101件（101/338、30%）であった。対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺（37件）・消化器・乳腺（150件）まで幅広い。腹腔鏡下手術は、胃癌手術30件（30/105、28%、昨年32%）、大腸癌手術73件（73/222、33%、昨年34%）、肝部分切除23件（23/40（昨年16件）、58%、昨年50%）肝葉切除1件（1/8、13%）に対し行われ、肝部分切除については手術総数も増加したが鏡視下手術の割合も増加した。最近では虫垂や成人鼠径ヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡を導入し、2017年には虫垂炎手術64件（64/161、40%、昨年30%）、鼠径ヘルニア手術31件（31/198、16%、昨年8%）といずれも腹腔鏡下手術総数、割合とも増加した。2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し、2017年には7件行った。また2015年4月からは早期胃がんに対してもロボット支援手術が開始され2017年は3件行った。乳癌手術は138件（昨年144件）で、乳房温存手術は56件（41%、昨年43%）、センチネルリンパ節生検陰性は113件で、昨年とほぼ同様の傾向であった。乳腺専門医と形成外科医による乳房全摘同時再建手術（Tissue expander挿入）は4件（昨年7件）に行われた。肝切除は52件で、疾患別内訳は、原発性肝癌25件、転移性肝癌22件、胆道癌3件、その他2件。膵頭十二指腸切除は30件で4件が標準的膵頭十二指腸切除で、残り26件は亜全胃温存で行われた。この疾患別内訳は、膵頭部癌10件、胆嚢・胆管癌7件、乳頭部癌5件、胃癌3件、十二指腸腺腫1件、IPMN2件、漿液性嚢胞腫瘍1件、リンパ管腫1件。食道悪性腫瘍は8例（1例はGIST）に根治手術が行われ、3領域郭清が4例、2領域郭清が4例であった。上部消化管潰瘍穿孔14例のうち非手術的保存療法は3例（21%）だった。腸閉塞入院は172件のうち48件（28%）に手術が施行された。小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携し治療に当たっており、新生児手術は2例であった。一般外科全体の入院総数は2,310人と昨年の2,171人より6.4%増加し、平均入院期間は10.6日とこちらは昨年の10.9日よりわずかに減少し、昨年に引き続き連続して減少し続けている。腹腔鏡下手術の若干の増加傾向があるが全体としてみた場合、昨年と比べて大きな変化はなかったと判断している。

（第一部長 平松 和洋）

(2) 肛門外科

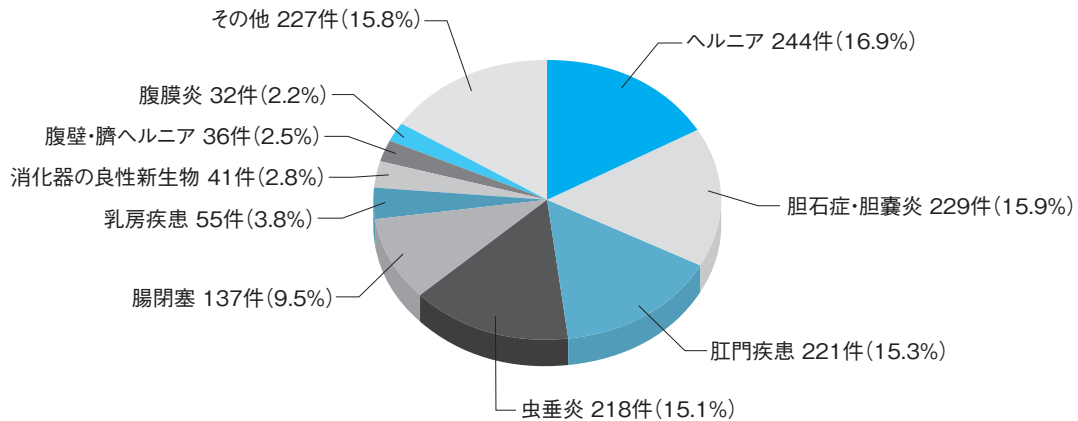
“肛門外科”は当院移転新設にともない単科（こう門科）と標榜され、厚生労働省の標榜変更にて現在は『肛門外科』診療だが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、症状にて受診される患者が多い。肛門というデリケートな部分であることから専門性を必要とした治療においてはやはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。また近隣の診療施設から併存症を有する患者様の紹介も多い。肛門外科標榜での診療日は木曜日の一日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者が安心して受診できるような対応・環境整備を心掛け、診察で患者に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。多くは良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法等保存治療に重きを置き、患者の症状によって手術適応を決めている。一方、“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

（部長 柴田 佳久）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

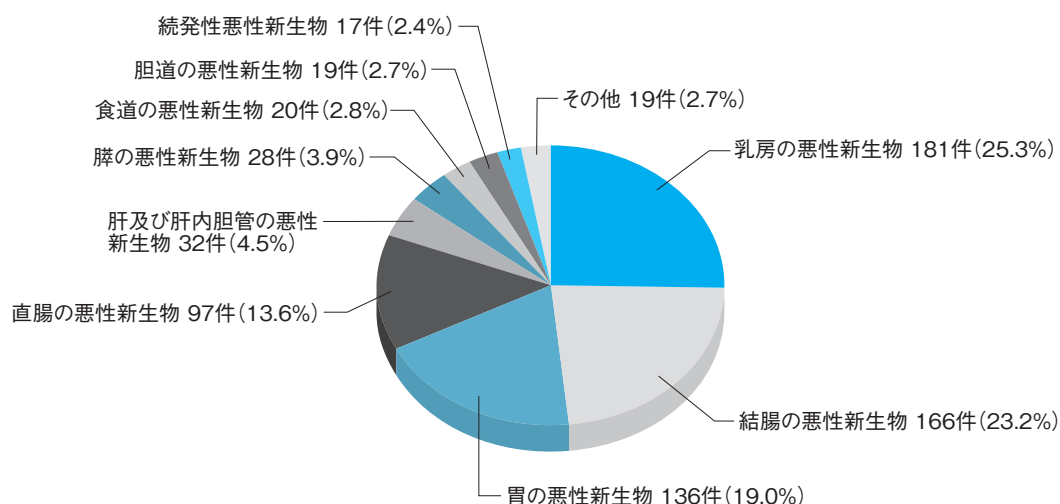
総数：1,440件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞又はえ疽を伴わないもの	213	K409
胆石症・胆嚢炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	120	K802
	急性胆のう炎	52	K810
肛門疾患	合併症を伴わない痔核, 詳細不明	70	I849
	合併症を伴わない内痔核	47	I842
虫垂炎	急性虫垂炎, 詳細不明	119	K359
	詳細不明の虫垂炎	80	K37
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	91	K565、K567
乳房疾患	乳房の良性新生物	55	D24
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	15	D377
腹壁・臍ヘルニア	臍ヘルニア, 閉塞又はえ疽を伴わないもの	19	K429
	腹壁ヘルニア, 閉塞又はえ疽を伴わないもの	17	K439
腹膜炎	急性腹膜炎	30	K650

(2) 悪性新生物

総数：715件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	107	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	30	C504
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, S状結腸	53	C187
	結腸の悪性新生物, 上行結腸	42	C182
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	108	C169
	胃の悪性新生物, 胃体部	14	C162
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	97	C20
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝癌	27	C220
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵, 部位不明	14	C259
	膵の悪性新生物, 膵頭部	11	C250
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	17	C159
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物, 肝外胆管	15	C240
続発性悪性新生物	後腹膜及び腹膜の続発性悪性新生物	8	C786
	肝の続発性悪性新生物	8	C787

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 36,739人 年間外来新患者数 2,256人
 年間入院患者数 24,112人 年間入院新患者数 2,167人

(2) 2017年1月～2017年12月入院概要 (全平均2,310人、全平均入院期間10.6日、未退院2名除く)

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
イレウス	手術	48	13
	保存療法	124	8.4
外傷	手術	8	14.5
	IVR	3	25.7
	保存療法	9	10.9
血管系緊急 (塞栓・解離など)	手術	1	66
	IVR	2	NA
	保存	5	10
合併症治療	保存治療	37	16.9
	手術	4	17.5
	IVR	1	19
抗がん剤有害事象	保存療法	51	7.5
その他	手術	34	7.7
	保存療法	56	10.3
その他/ 悪性	手術	9	16.0
	保存療法	3	33.7
甲状腺/ 良性	手術	14	4.5
	保存療法	0	0
甲状腺/ 悪性	手術	24	4.3
	保存療法	0	0
内分泌	予定手術	2	6.5
非新生児	手術	166	3
	保存療法	25	3.6
腹腔内 癌再発	手術	7	23.9
	保存・緩和療法	2	26
腹膜炎	手術	33	30.9
	保存療法	24	12.7
ヘルニア	手術	198	2.9
	保存療法	9	4.7
痔核・痔瘻	手術	28	5.7
	保存療法	2	3.5
虫垂	手術	117	4.2
	保存療法	23	8.2

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
胃十二指腸/ 良性	手術	12	22
	保存療法	5	18.2
胃十二指腸/ 悪性	手術	116	16.1
	化学療法	13	5.7
	IVR	1	11.0
	緩和療法	16	26.9
	保存療法	27	16.6
肝胆膵脾	手術	317	10.8
	保存療法	76	12.6
	緩和療法	15	17.1
	化学療法	2	9.0
	放射線療法・IVR	3	10.3
小・大腸/悪性	手術	255	15.3
	化学療法	10	10.9
	保存療法	59	14.1
	緩和療法	21	16.9
	放射線治療・IVR	4	22.5
小・大腸/良性	手術	24	20.2
	保存療法	2	6.5
食道/悪性	手術	8	22.6
	保存療法	6	16.5
	化学/放治	11	12.8
乳腺/その他	緩和療法	1	38.0
	手術	4	1.8
乳腺/悪性	保存療法	1	2
	手術	144	6.3
乳腺/悪性	保存療法	29	16.9
	緩和療法	8	19.6
	化学/放治	17	22.1

NA:Not Analyzed

(入院中の患者が5%以上いるため概算も不能)

(3) 一般外科・小児外科手術数 (2017年) 1,725例

①一般外科	1,725	(a)小腸切除	14(1)
全身麻酔	1,367	(b)腸瘻造設	4
脊髄麻酔	106	(c)腸瘻閉鎖	13
局部麻酔	252	(d)腸吻合	3
(ア)甲状腺		(e)結腸直腸切除	15(3)
a 良性疾患		(f)大腸垂全摘	3
(a)部分切除	0	(g)癒着剥離	32(6)
(b)葉切、垂全摘、全摘	25	(h)経肛門／経仙骨	0
b 悪性疾患		(i)単開腹／その他	4(1)
(a)部分切除、垂全摘、他	9	b 悪性疾患	
(b)全摘	3	(a)腸瘻造設	25
(イ)乳 腺		(b)腸吻合	0
a 良性疾患 摘出	11	(c)小腸切除	4
腺管区域切除	1	(d)結腸切除	127(41)
b 悪性疾患		(e)直腸切除 (高位、低位)	79(31)
(a)定型乳切	0	(f)直腸切斷	11(6)
(b)非定型乳切 (Bt+Ax)	25	(g)経肛門／仙骨的切除	0
(c)Bt±SLNB	57	(h)骨盤内臓全摘	1
(d)乳房温存手術±SLNB	56	(i)大腸垂全摘	0
(e)Tm他	0	(j)単開腹／その他	1
(ウ)食 道		(カ)虫垂炎 (虫垂 / 回盲部切除)	121(43)
a 良性疾患	1	(キ)肝/胆/膵/脾	
b 悪性疾患		(a)肝部分切除	40(23)
(a)胸部食道切除	8	(b)肝区域／葉切除	12(1)
(b)その他	0	(c)胆嚢床切除	5
(エ)胃・十二指腸		(d)開腹胆嚢摘出術	9
a 良性疾患		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	192
(a)胃切除、胃全摘	3	(f)開腹胆管切開術	5
(b)体網充填	12	(g)胆管消化管吻合	0
b 悪性疾患		(h)胆管切除	4
(a)幽門側胃切除	73(26)	(i)膵頭十二指腸切除 (PD)	0
(b)胃全摘	30(4)	(j)垂全胃温存PD	27
(c)噴門側胃切除	0	(k)膵尾部切除	7
(d)腹腔鏡下胃切除	30	(l)膵全摘	1
(e)胃腸吻合	6	(m)膵部分切除	1
(f)楔状切除／十二指腸切除	5(1)	(n)膵管空腸吻合	0
(g)PD	2	(o)脾摘	5(2)
(h)試験開腹／その他	1	(p)胃腸吻合	2
(オ)小腸・大腸		(q)単開腹／その他	4
a 良性疾患			

(ク)内分泌	
(a)副甲状腺	2
(b)副腎	0
(ケ)ヘルニア	
(a)鼠径大腿	183(24)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	15(7)
(コ)痔核痔瘻	31
(サ)局麻手術	
(a)摘出、生検	31
(b)その他	76
(シ)外傷／医原性	10(1)
(ス)腹膜炎	36(3)

(セ)腹腔内癌再発	20(2)
(ソ)その他	37(4)
②小児外科(全例全身麻酔)	179
(ア)新生児手術	2
(イ)鼠径ヘルニア	86(84)
(ウ)虫垂切除	40(21)
(エ)精巣固定	15(1)
(オ)臍形成	15
(カ)幽門筋切開	1
(キ)その他	20(2)

()内はその内の鏡視下手術件数

学会発表（医局）

<肛門外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	医師 区分
1	当院の経腸栄養療法における下痢対策：NST作成のフローチャート活用	筆頭演者	柴田 佳久	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	岡山市	2017/2/23	
2	当院で稼働しているクリニカルパスの適性についての評価検討	筆頭演者	柴田 佳久	第67回日本病院学会	神戸市	2017/7/21	
3	一般臨床（地域基幹）病院におけるコロノCTの位置づけ—当院導入初期から	筆頭演者	柴田 佳久	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡市	2017/11/10	
4	当院で稼働している結腸手術クリニカルパスの適性についての評価検討	筆頭演者	柴田 佳久	第79回日本臨床外科学会総会	東京都	2017/11/23	

座長・司会（医局）

<肛門外科>

No.	座長・司会	演題名	座長名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	医師区分
1	座長	ポスターセッション 直腸-肛門・症例	柴田 佳久	第117回日本外科学会 定期学術集会	横浜市	2017/4/28	